

平成29年度第1回

長洲町

総合教育会議記録

平成29年度第1回長洲町総合教育会議

○日 時

平成29年6月2日(金) 午前10時00分～午前11時10分

○場 所

長洲町役場3階大会議室

○出席者(6名)

町 長	中 逸 博 光	教 育 長	松 本 昇
教育長職務代理者	大 山 司 朗	教 育 委 員	木 下 信 博
教 育 委 員	田 中 伏 美	教 育 委 員	隈 部 壽 明

○説明補助員(3名)

まちづくり課長	田 成 修 一	福祉保健介護課長	吉 田 泰 滋
子育て支援課長	山 本 明 子		

○事務局(9名)

副 町 長	竹 本 康 美	総務課長	田 畑 道 尋
総務課長補佐	杉 浦 親	学校教育課長	藤 井 司
学校教育課長補佐	松 林 智 之	生涯学習課長	長 田 修
生涯学習課長補佐	荒 木 功	総務課総務係長	山 口 葉 子
総務課総務係担当	五十嵐 史 紘		

○関係者(9名)

六栄小学校長	根 本 まり子	腹赤小学校長	福 田 賢 一
長洲小学校長	甲 斐 裕 一	清里小学校長	城 祐 治
腹栄中学校長	松 永 光 親	長洲中学校長	高 木 徹
アドバイザー	迦 統 美陽子	アドバイザー	松 岡 友 美
アドバイザー	近 藤 由美子		

議事次第

- 1 開会
- 2 主催者挨拶
- 3 協議・調整事項

(1) 平成29年度長洲ふるさと塾について

(2) 平成29年度寺子屋学習塾について

4 その他

平成29年度第2回長洲町総合教育会議について

【司会（杉浦総務課長補佐）】 おはようございます。ただいまより、平成29年度第1回長洲町総合教育会議を開会いたします。

それでは、まず開会に当たりまして、主催者であります中逸博光長洲町長よりご挨拶をお願いいたします。

【中逸町長】 皆様、おはようございます。大変お忙しい中、平成29年度の第1回総合教育会議にご出席を賜り、ほんとうにありがとうございます。この総合教育会議も平成27年度から開始したわけでありますけれども、もう今年度で3年目を迎えることになりました。これまで学校の危機管理や貧困の連鎖の解消など、委員の皆様と意見交換を行い、長洲町の教育の方向性について共有が図られたんじゃないかなと感じております。今後もこの総合教育会議を長洲町の教育の中心に据え、委員の皆様と活発な議論を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

今回、第1回の会議につきましては、長洲ふるさと塾、並びにながす寺子屋学習塾について現状分析を行うとともに、さらなる子供たちの健全育成を図るためにはどのようにしたらよいかを委員の皆様や、今日はアドバイザーがお見えになっておりますので、皆様からのご意見をお聞きし、今後の施策を進めてまいりたいと考えております。

長洲ふるさと塾におきましても、それぞれの校区の介護予防拠点施設を活用し、地域の方を先生に招いて長洲町の自然などに触れ学び、昨年度は延べ530人の児童が参加しております。また、ながす寺子屋学習塾におきましても、昨年度の清源寺公民館でのモデル事業から今年度は4小学校に拡大し、児童の学力向上、並びに誰もが気軽に勉強できる場所づくりを行っております。

町では、今後も引き続きこれらの事業をより充実したものにするために、町民の皆様にご協力をお願いいたします。先生となっていただき、多様な学習活動につなげてまいりたいと考えておりますので、委員並びにアドバイザーの皆様のご意見をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、委員の皆様との議論を通じて、長洲町の教育がより充実したものとなることを祈念申し上げ、挨拶といたします。本日はよろしくお願いいたします。

また、校長先生におかれましては、ほんとうに6月、梅雨の時期がよいよ参ります。どうか、この時期の子供の安全について、よろしくご指導をお願い申し上げます。本日はよろしくお願いいたします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 開会に当たりまして、4月に定期異動がっておりますので、新たに就任されました校長先生の皆様をご紹介します。

腹赤小学校の福田賢一校長先生です。

【福田腹赤小学校長】 おはようございます。よろしくお願いいたします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 長洲小学校の甲斐裕一校長先生です。

【甲斐長洲小学校長】 おはようございます。お世話になります。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 腹栄中学校の松永光親校長先生です。

【松永腹栄中学校長】 大変お世話になります。よろしくお願いいたします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 松永校長先生は、長洲小学校から異動でかわっておられます。皆様、よろしくお願いいたします。

引き続きまして、アドバイザーのご紹介をさせていただきます。今回の総合教育会議は、ふるさと塾をメインに意見交換をさせていただきたいと考えており、平成28年度のふるさと塾に講師としてご協力いただきました3名のアドバイザーの方にご出席をいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

日本野鳥の会の迦統美陽子様です。

【迦統アドバイザー】 おはようございます。よろしくお願いいたします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 松岡友美様です。

【松岡アドバイザー】 おはようございます。よろしくお願いいたします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 近藤由美子様です。

【近藤アドバイザー】 よろしくよろしくお願いいたします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 皆様、本日はよろしくお願いいたします。

また、事務局の紹介につきましては、席次表の配付でかえさせていただきます。ご了承をお願いいたします。

それでは早速ですが、本日の次第3にございます協議・調整事項となります。長洲町総合教育会議運営規約第2条におきまして町長が議長になることとなっておりますので、これからは町長に議事の進行をお願いいたします。

【議長（中逸町長）】 皆様、改めましてよろしくお願いいたします。

本日は、今年度に予定されておりますふるさと塾と寺子屋塾について協議をさせていただきます。

ふるさと塾につきましては、平成27年度から取り組みを始め、3年目の取り組みとなっております。子供の健全育成のため、地域との連携を通じて、さまざまな体験を提供し、豊かな心を育むきっかけになればと、私も積極的に関与しているところでございます。ま

た、昨年、腹赤小学校をモデル校といたしました寺子屋塾につきましては、今年度から4小学校に拡大することにしております。

やはり学力というものは、人生を形づくる重要な基礎の一つであります。貧困の連鎖を防ぐとともに、また、今後の課題でもあります放課後の居場所づくりの一つの選択としての効果も大きいものではないかと思えます。

まずは、ふるさと塾につきまして教育委員会からの説明を受けまして、皆様と現状と課題について協議を行いたいと思えますので、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（藤井学校教育課長）】 皆様、おはようございます。それでは、長洲ふるさと塾について私、学校教育課長の藤井から説明させていただきます。

お手元の資料の3枚目、右上に資料①とある資料をごらんください。この内容につきましては、2月に開催いたしました前回の総合教育会議で説明しました資料と重複する分が多くございますけれどもご了承ください。

先ほど町長からもご紹介がございましたけれども、各小学校の児童を対象に、夏休みや冬休み等の期間中におきまして、地域の介護予防拠点施設などを会場に、地域人材を活用いたしました多様な体験活動を実施いたしております。

目的としましては、以下四つの項目がございます。1番目としまして「学ぶ・遊ぶ・育む！」をテーマに子供が取り組む姿勢や意欲の向上を図ることとでございます。続きまして、地域の歴史や文化を学び、郷土を愛する心を育むこととでございます。続きまして、地域の大人や異学年の子供たちとの交流を深め、規範意識を習得し、社会性を身につけるということとでございます。4番目が、新たな地域人材を発掘し、地域の活性化を図ることを目的といたしております。

下のほうには、昨年度の実績としまして主なものを上げさせていただいております。若干ご紹介をさせていただきます。

一番右の六栄校区でございますが、会場は向野公民館でございまして、写真にございますのがパステルアートの取り組みでございます。本日アドバイザーでご出席いただいております松岡様にご指導をいただきました。ありがとうございます。そのほかに、昆虫採集ですとか読み聞かせ、ALTによります英語活動、木工のものづくりなどございまして、またお楽しみとして、スイカ割りですとか流しそうめんなどを行いました。延べ170人ほどの参加で行っております。夏休みに七日間、冬休みに三日間実施しております。

次に、腹赤校区でございますが、会場は清源寺区公民館でございます。写真は、地域婦人会の皆様にご指導をいただきました郷土料理教室でございます。そのほか、本日お越しのアドバイザー近藤様をはじめ町民会議の皆さんのご指導により、牛乳パック等を活用しました花瓶づくり、そのほかにレクリエーションですとかパステルアート、お金の教室で貯金箱づくりなどを行っております。

長洲校区につきましては、磯町区の磯の館を会場、拠点といたしまして実施しました。写真にございます野鳥観察でございますが、こちらにつきましては、本日ご出席のアドバイザー迦統様をはじめ、野鳥の会の皆様にご指導をいただきまして、実際に長洲の海岸ですとか河川で観察を行ったところでございます。そのほかに科学遊びですとか、貝殻や木工などのものづくり、英語活動も行っております。

最後に、清里校区におきましては、梅田の公民館におきまして、長洲町の歴史について学んだり、県立少年自然の家から講師を招きまして、勾玉や木工などのものづくり等を行いました。なお、写真にございますが、中逸町長にも木育といたしまして、ものづくりのご指導をいただきました。六栄校区や長洲校区にもご指導をいただいております。

そのほかにも多数の皆さんにご指導をいただきお世話になっております。ご紹介につきましては、その次の次にA3の横長の広い28年度の指導者一覧があるかと思っておりますけれども、こちらに各校区でお世話になりました地域住民の皆様方の指導者、講師の皆さん、それと内容について掲載させていただいております。後ほどご覧ください。紙面にてご紹介にかえさせていただきます。

このように多数の皆さんにご協力いただきましたこのふるさと塾でございますが、それぞれの校区で参加された児童の皆さんは、さまざまな体験、交流活動で、郷土愛ですとか、そのようなものに触れて学んでくれたものと確信いたしております。この昨年度の実績を踏まえまして、成果や課題を整理いたしまして、今年度の計画づくりに反映していきたいと思っております。

そして、先ほどの資料の一つ前に戻っていただきまして、別紙1とございますが、長洲ふるさと塾の進め方ガイドラインというものをこちらで作成いたしまして、今年度実施をしていきたいと思っております。

予算につきましては、今年度が骨格予算でございましたので、6月の補正にて、予算については計上いたす予定でございますが、予算といたしましては、地域住民の皆様方の指導に対しての謝金ですとか、使います教材等を増やさせていただく予定でございます。

進め方といたしまして、子供たちにどのように進めていくかということで、まず1番目の大きな狙いといたしまして、地域の資源、人ですとか自然、文化などを活用いたしまして、子供たちの生きる力ですとか、ふるさとを愛する心、いわゆる郷土愛でございますが、こちらを育成する。それから、さらには体験交流活動を通しまして、子供たちに社会性を身につけさせ、さらには主体的に行動できるようにするというのをさらに大きな狙いといたしております。

また、塾で学ぶテーマといたしまして、これまである程度、年度が始まりまして、私も学校教育課でいろいろな人材を探しておりましたけれども、もっとテーマを大きく絞り込んでいきまして、いろいろなテーマを出しながら塾を運営していこうということで、大きく五つのテーマを盛り込んで計画をいたしております。

1番目に、地域の自然に触れる。生き物ですとか植物など、これまでもこのような内容で活動をいたしております。2番目に、地域の暮らしに触れるということで、町の産業の体験ですとかものづくりなど。3番目といたしまして、地域の歴史・文化に触れるということで、町にございます貴重な文化財、史跡めぐりなどを行ってはどうかと考えております。それと4番目といたしまして、先輩たちとの交流ということで、小学校を卒業された後、高校に進学された高校生・大学生の方からいろいろ、夏休みの宿題・冬休みの宿題等の学習支援を行っていただいたり、自由研究などのお手伝いをしていただければと思っております。さらに社会人の方については、キャリア教育といたしましてご指導いただければ。さらには、心の教育として夢とか希望、目標を持って今後育っていただくような内容を取り入れられればと思っております。それと5番目としましては、高齢者との交流ということで、昔の戦争体験の話、生活の様子などですとか昔遊びについてご指導いただいて交流を深められればと考えております。

さらには、そういった活動の成果を発表する機会といたしまして、「広報ながす」やホームページに掲載することはもちろんでございますが、お世話になりました各会場に、そういった成果物、掲示物の展示ができればと考えております。

それと3番目の実施体制でございますが、これまで教育委員会が主体となってやってきました。当面は教育委員会が主体となりまして、テーマごとに地域人材をコーディネートしながら用意してまいる予定でございます。さらに将来的には、地域の責任者を中心とした実施体制づくりができればなというところを出しております。さらに今後、各校区に設立予定の学校運営協議会でその組織化ができ、さらに計画立案ですとか運営を行うことが

できればと考えているところでございます。

4番目の実施方法といたしましては、先ほど申しましたとおり、6月議会で予算が通りました後には、カリキュラムの検討をして、テーマですとか内容を絞り込みました後、その講師の手配と場所の確保をいたします。講師の手配に関しましては、これまでの実績と、さらにはお手元に資料がございますけれども、町の人材バンクの登録者等を踏まえます。今のところ、またその次の次の別紙3というところで、今年度のカリキュラム計画案があります。それぞれのテーマごとに想定される内容、講師、これはまだこちらで拾い出した案でございますので、まだこれからこの中で絞り込んでいながら、協力依頼をさせていただこうかなと思っております。そういったところで、講師の手配をいたしまして、場所の確保、日時もですけれども確保いたしまして、7月に入りまして参加者募集。その後、材料等の手配を行いまして、夏休みの、早速7月の末からスタートするかと思っておりますけれども、実施に向けて準備を進めてまいりたいと考えております。

各校区それぞれ10回程度でございます。夏休み、冬休み合わせまして10回程度です。時間としましては、午前もしくは午後の3時間程度を考えております。これもこれまで同様でございます。

以上、走りましての説明となりましたけれども、このご説明いたしました事業によって、公民館や介護予防拠点施設を地域の学習・交流の拠点と位置づけまして、ますます地域住民の皆さんと協力・支援体制を充実させながら、地域で子供を育てる体制づくりを進めてまいりたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。これで私からの説明を終わらせていただきます。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

それでは、今日は3人のアドバイザーがお見えになっております。講師として、このふるさと塾に携わっていただきました。3人の講師の皆さんから、それぞれ感想や意見、要望をお聞かせいただきたいと思います。

迦統さんから、よろしくお願いいたします。座って結構です。

【迦統アドバイザー】 おはようございます。六栄の迦統と申します。去年、一昨年からお願いされて、ちょっと子供さんたちに鳥のことをお話しさせていただく機会がありました。

私、こっちに来ましてもう46年ぐらいになります。全然もう九州でもないところから来まして、当初は3年ぐらい言葉はわからないし、生活の仕方も大分違うし、ほんとうに

どうしようかと思いました。子供がいてもまだ小さかったりして学校にも行ってませんでしたときに、ほんとうにどうしたらここでずっと根づいていかれるのかしらと思ったときに、裏の庭に、庭といってもほんとうに草原のようなところですけども、そこに大きなクスノキがあったんですね。そのクスノキの上に鳥が舞ってたんです。「ああ、この鳥たちと遊んだら少し気分も晴れるし、何か開けてくるんじゃないかしら」ってちょっと思ったんですね。そのとき、熊日に野鳥の会熊本県支部の前の前の代表の方がずっと連載されてたんで、熊日に電話をして、その方の住所を聞いて、野鳥の会に入れていただけませんかと言ってお手紙書いたんですね。それが始まりです。

ほんとうにもものすごくいろんな悩みがいっぱいあったんですけど、荒尾干潟とか、それから山に出かけて行って、小さな鳥たちが懸命に生きてるのを見て、「ああ、人間のやってることも大したことないな、おんなじように懸命に生きてるな」っていうのがすごくわかりました。それ以来、やっぱりいろいろ今でも悩むことはいっぱいありますが、子供たちにも感動とか、それから懸命に生きていくっていうようなことをわかってもらえればいいかなと、すごく思うんですね。

今の子供たちは、ちょっと冷めてるところがありますけれども、何回かさせていただくと、ものすごく一生懸命聞いてくれる子供たちもいます。また、双眼鏡の使い方もわからんし、風も吹いてくるし、雨も降ってくるし、嫌っていう子も中には結構いるんです。そういう子供さんたちにもやっぱり目を向けていただいて、何か全然違った世界でみんなが一生懸命に生きてるよということがわかってもらえたら、少しは違ってくるんじゃないかな、知らなかった世界がわかったら、少しは考え方も変わってくるんじゃないかなと、かすかな望みを持っております。

やっぱりそういうことを成功させるためには、私一人ではちょっとなかなか難しく、お隣の荒尾の先生にお願いするんですけども、もうご高齢でもいらっしゃるんで、やっぱり長洲のスタッフの方で、そういうことをちょっとでも理解していただける方に少しお手伝いを。「ちょっとこっちを向いてよ」とか、「そんなら、車の中で見みようか」とか誘導をしていただだけでも随分違うと思うので、そういう方が何人かいらしていただいたらいいかなと思うんです。これは継続していかないと何にもならないしですね。

今、六栄に大堤池っていうのがあるの皆さんご存じでしょうか。かなり広い池なんですけれども、そこに一昨年から、絶滅危惧種のクロツラヘラサギという鳥が来てるんです。それはもう4月の半ばぐらいには帰って、11月ぐらいには来ますかね。大体そんな感じ

です。これはなかなか実現は難しいかもしれないけれども、土地の子供さんたちにちょっと手伝っていただいて、「今日は何羽来てたよ」とか「今日はこっちのほうにずっといたよ」とか、そういう調査っていうほどじゃなくても、みんなでそういうことができたらいいなと思うんですけども。それには、池っていうこともあるし、山でもそうですけれども、やっぱり危険は伴うんですね。だから、そういうことも配慮しながら、いろんな方面から考えて、安全で、そして楽しいバードウォッチングができたらいいなと思っております。大体こういうことをごさいます。よろしく願いいたします。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。六栄の大堤に今、鷺巣区が看板を立てて、いろんな鳥の種類を張ってあります。有明海の干潟、あるいはこういった大堤に非常に世界でも珍しい鳥が来ておりますので、ほんとうに迦統さんたちにそういうのを広めていただいております。ほんとうにありがとうございます。

それでは、次に松岡さんから。

【松岡アドバイザー】 松岡です。今日この会議に出席させていただくということで、私も私なりにいろんなことを考えてきました。

まずは、先生方も初めての方でいらっしゃるもので、何者だと思われるとあれなので。放課後等デイサービスをご存じでしょうか。特性のあるお子さんたち、障害を持っていらっしゃるお子さんたちを、夕方とか長期の休みのときにお預かりする福祉サービス事業の一つですが、私はすぐそのロッキーの裏のところで、NPO法人スローすてっぷとして、そういう事業を4年前からしております。

そのときから、ほんとうに子供たちとかかわることが多いです。小学校1年生から高校3年生までのお子さんたちです。その中でいつも感じていることは、一人の子供を育てるのに横のつながりってとても大事だなということで、それをこの4年間をかけて学んできました。だから、うちの法人で大切にしていることは、地域のつながりです。福祉の事業所だからといって福祉で囲んでしまわんじゃなくて、いろんな人を巻き込んで、いろんな人に接してもらって、地域の大人の人もその子供たちにかかわってもらってということもいつも大事に考えています。

私は一町民として、あとはそういう事業をしている一法人の代表としての視点で、今日は少し意見とか要望とかをさせていただけたらいいなと思います。

まず、今回、ふるさと塾に参加させていただき、さっき講師というご紹介がありました。が、実は私はほんとうに補助的な立場で、ほんとうは講師があと二人いらっしゃいます。

そのお手伝いという形で行きました。まず、率直な感想は、ふるさと塾ってすごくいいものを長洲町はされてるなっていうものです。なぜかという、やっぱり地域の子供たちの現状を、地域の大人たちに知ってもら。触れ合うきっかけになる場所づくりなのかなと。だから、長洲で何かこういうことをしてもらってすごくいいことだなって思いました。

私たちもそういうきっかけがないと、仕事ではいろいろこの有明圏域の中で、荒尾とか玉名とか長洲とかも含め、関わっていますけど、実際、長洲町の子供たちの現状ってあんまり知ることがなくて、こういう縁で参加させてもらった中で、ああ、こういう感じなんだと。腹赤と六栄に行かせてもらいましたが、やっぱり校区ごとに子供たちのキャラというか、全然違いますもんね。その驚きもあって、それを取り囲む大人たちも、接し方とか考え方とかもいろいろちょっと感じました。

それで1年目はちょっと私も中身をよく……。説明を受けて、自分も実際参加しましたけど。1年目は、やっぱり学校教育課さんが軸になって企画とか運営とか全てを多分担ってされてきたのかなと思います。けれども、今年度、29年度、すごく中身が充実したものをされるんだなって、すごいなと思ってます。もう一人パートナーがいるんですけど、私たちも実はいろいろ考えてきたんですよ。何かこういうのもあったらいいなとか、一つの提案として。でも、ほぼこの中にもう組み込まれていました。

そこで思うのが、そういう発想にもうなってらっしゃるのかどうか分かりませんが、ほんとうに子供たちと向き合うためには、まず教育委員会だけではだめだなと思います。いろいろここにカリキュラムがありますけど、全部見ると、例えば生涯学習課とか農林水産課に関係あるカテゴリーとか、町づくりに関係あるとか、住民環境課に関係あるとか、いろんなことが書いてあるんですが、この役場というか、その各課の方たちはどんな関わりを持っていかれるのかなというのが一つ質問です。最後に答えをいただけるといいですけど。

というのは、やっぱり子供って、これだけのことをしていくならば、ほんとうに全ての大人たちが本気で向き合っていないと不可能かなと思います。さっき、迦統さんからの話にも、やっぱり人手不足とか、もっと長洲の人たちにお手伝いしてほしいとありました。やっぱり継続することは大事と思うし、その辺はどんなふうな協力体制ができているのかなって。やっぱりこれだけするってすごく大変だと思うし、私たち民間もどんどん使ってほしいと思います。そのことを今日、ちょっと聞いてみたいなと思っていました。

長洲町の教育理念の「子どもを真ん中に」って、私はすごくこの言葉が大好きで、ほん

とうにこの言葉をもとに、これから長洲の子供に関わる大勢の人たちが横のつながりを大切に、重要に思って関わっていく。もちろん私もそうです、関わっていくんだろうなと思いますし、ぜひこの理念のもとに一致団結しないといけないかなと思います、行政も民間も学校も全て。済みません、偉そうなことばかり言って申しわけないですが、ほんとうに一意見として聞いてください。ほんとうに理想です。具体的にもしよかったら、いろいろ動いてほしいなと思います。

いろいろ考えてきた中で一つ、町長とかがふるさと塾に足を運ばれるのは、子供たちにとって、子供の頃の思い出としてすごく印象に。町長さんが来てくれたっていう、ちょっとしたことかもしれないけど、ほんとうに生涯心に残ることだと思います。子供の印象にずっと残っていて、長洲にいたからこういうことがあったみたいなことを植えつることで、やっぱり長洲は今、定住化でたくさんの人に住んでほしいということも目標に掲げてあると思うんですけど、そういう気持ちと地道な活動が先の長洲町のいろんなことにつながっていくのかなと思うので、今こういう形でスタートしたものをもっと充実させていくためには、相当な覚悟が要ると私は思います。

あと、やっぱり子供のことなので、学校教育課と子育て支援課、生涯学習課が中心になっていくとは思うんですけど、やっぱり子供のことから学校教育課がするだろうではいけないと私は思います。そうなってるかどうかはわかりません、済みません、ただ私の推測です。

あと、最後に、ふるさと塾に参加したときに、やっぱり私の仕事の目線からいくと、今、いわゆるグレーゾーンといわれる子がたくさんいました。多分そうだろうなって。けど、それに関わっている学童の先生とか、私もそんなに知識はありませんけど、言葉かけを少し変えると、この子は絶対集中できるのになって思う場面がたくさんありました。そういうのはやっぱり周りの大人たちが勉強していかないといけないことかなと思います。こんな偉そうに言ってるけど、私も4年前です、「ああ、そういうふうにしなきゃいけないんだ」と感じたのは。でも、4年たったら考えが変わります。こうしたら接することができるんだ、こうしたら椅子に座っとくことができるんだとか。だから、この塾をしていく上で、そういう意味も含めて、みんなでそういう特性の部分とかもそれぞれが勉強してほしいなというのは思います。もうちょっとやっぱり、済みません、学童の先生たちも大変とは思いますが、少しそういう知識とかも持ってらっしゃったほうが自分たちも楽かなと思います。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

じゃあ次に、近藤さん、お願いいたします。

【近藤アドバイザー】 おはようございます。清源寺の近藤といいます。私は講師とかそういうつもりじゃなくって、ほんとうに今日は済みません、こんな皆さんの前での会議とは全然思わなくて、何も知らない一般の主婦で申しわけなく思ってます。

たまたま町民議員の福本みや子さんとのお話の中で、私が、人吉ですごい格好いい花瓶があって、それを「これ、どこの窯元のですか」って聞いたら、「いや、女将が作ったんです」って言われて、教えてもらったら、何かできそうと思ったんですね。それですぐつくってみようと思って作って、たまたま見ていただいて、「子供たちに教えてもらえますか？」ってことで、「全然いいですよ」って、お手伝いのつもりで言ったんです。だから、全然講師とかそういうふうな感じじゃないんですけど。

とにかく子供たちと一緒に楽しく時間を過ごせたらいいなっていうことで、多分去年12月だったと思うんですけど、させていただきました。それに当たって、やっぱり町民会議の楠田さんだったり、すごく一生懸命準備のお手伝いとかしてくださったおかげで、当日も私はほんとうに何もしてないんですけど。たくさんの役場の方も、すごいなって。その連携というか、子供さんたちに一生懸命接してるなっていう感想でした。

今、私はもう子育てというか、子供は自立しているから、小さい子は通学のときに声かけをするぐらいで、なかなか接する機会がないんですけども、何かやっぱり元気がないなという思いがしています。ちょっと詳しいことは全然言えないんですけども、やっぱり今、スマホ育児ですか、保育ですか、そういうふうな時代で、パソコンだったりにはきっと詳しいと思うんですね。でも、長洲町ってほんとうにこんなすばらしい自然があるし、例えば夕日見て、「わあ、きれい」とか。私はぼうっとしとっても全然平気なほうなんですけど、子供は多分そういう時間がないんじゃないかなって思ったりします。そういうところに一緒に共感して、「わあ、きれいね」って言ってくれる大人が隣にいと、きっと感性が磨かれるのかなとか、そんなふうな思いはするんですけども、それをどういうふうになって言われると、やっぱりなかなかね、難しいんですが。だから、この計画を見たときに、やっぱり皆さんのすごい努力というか、すばらしいなと思いました。

それと、やっぱり地域の方というか、大人がもっともっと変わらないといけないのかなって、今、実感したんです。私の主人もそうなんですけど、周りに定年を迎えて家で「今日1日何をしようかな」って思われてる方がたくさんいらっしゃるって、すごい技術というか、

能力を持っていらっしゃる方もたくさんいるので、そういう方たちをもっと引き出せて、子供たちと一緒にわいわいできたらいんじゃないかなって、今ちょっと思いました。

済みません、こんな意見で。ありがとうございました。

【議長（中逸町長）】 いえいえ、ありがとうございました。

先ほどから長洲町のお手伝いをする協力体制ということですが、それで、今日はこの人材バンクの登録表というのを皆さんにお配りしてるんじゃないかと思います。長洲町にはいろんなすぐれた方がたくさんいらっしゃいます。なぜ今日これを添付したかという、こういう方に塾の先生として参加していただければ、ほんとうに子供たちがさらに感性を磨くことができるんじゃないかということで、この人材バンク登録表を作ったわけです。この方々には今後、介護予防拠点やあるいは放課後子ども教室でも教えていただこうと考えております。

今日は結論を出す会議ではございません。委員の皆様からお一人ずつ、また校長先生方からもいろいろなお意見をお聞かせいただいて、今後、活用させていただければということでございますので。

大山委員から何かありましたらお願いしたいと思います。お座りになって全然結構です。

【大山委員】 大山です。よろしく申し上げます。

今、お三方からお手伝いの模様というんですか、いろいろやっていただいていることのご説明がありましたけれども、ありがとうございます、いつもお世話になっております。

前回というか、去年も言ったんですけれども。長洲ふるさと塾にしたって、寺子屋塾にしたって、学校教育課の職員がつきっきりというふうな状態というのがあって、非常に職員が大変だなと。本来の業務も合わせると、すごい量になるはずですね。そういうことで、長洲ふるさと塾については、地域のほうで必ずコーディネートしていただいて、やっていただくという方向にいかないといけないんじゃないかなと。現在では、長洲小学校校区はほとんど木下先生がそういうコーディネーターのようなことをやられて兼務もされているというようなことですが、ほかの3小学校区についても、そういうコーディネーターをお願いして進めていくべきじゃないかなと思います。

そのためには、やはりある程度の報酬というか、予算措置をしていただく必要があるんじゃないかなと。もう一つのあれにも地域コーディネーターがおられて、その方が手配されてからやっていて、かなり充実したことをやられているということで、ふるさと塾のほうにもそういう方を地域から立っていただくということをせんといかんんじゃないかなと

思います。

それから、一つの問題として、1年から6年までで今、長洲ふるさと塾はやってるんですけども、ちょっと内容的に広過ぎるんじゃないかなというか、学年差、年齢差があり過ぎるんじゃないかなと。これは、私一人の考えなんですけども。だから、例えば4年から6年までに固定したほうがいいんじゃないかなとか、あるいは、人材に余裕が出てくるならば、4年から6年と1年から3年に分けてしたらいいんじゃないかなとか、そういうことを思っております。以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

木下委員、お願いします。

【木下委員】 おはようございます。木下です。

ふるさと塾と寺子屋塾ですが、一口で言いますと、もう昨年度あるいはその前から実施しておりますので、それをやっぱり続けていく、あるいは広げていくということになるのかなと。PDCAで言いますと、PとDは実施できてますので、今日はこれから先どのように評価して改善していくかという方向性だろうと思いますが、それについては、今まで何人かの方の発言もありましたが、後でまた発言させていただきます。

最後あたりでもう一つ。子供の居場所づくりについては、これを今言いますとまた論点が広がりますので、今日は最後に問題提起だけさせていただきたいと思っています。

それから評価については、たくさん課題はありましたし、表とかありますが、これもまた次の発言のときにさせていただきます。以上です。

【議長（中逸町長）】 それでは隈部委員、よろしくをお願いします。

【隈部委員】 隈部です。

まだ始まったばかりですので、いろいろ試行錯誤をしながら、3人の方々にはすごいご協力をいただいて進められてると思いますが、皆さんおっしゃったのは、やっぱり人材で、人材というと大げさなんですけども、やっぱりどういうことのできる人がどこにどれぐらいいるかということをやっぴりきちっと集めていかないと継続していくことはできないんだというのが実感としてわかりました。

それで、ここにも人材バンクの表が出てますけども、これが具体的、例えば、「一人一芸」みたいな、「みんな一芸登録しろよ」みたいな運動として、これはどんどん充実していかないと、「できますか」って聞いても「いや、私はちょっと」みたいな話になってしまうので。そこを気軽に、「私はこれができるよ」みたいなことを進めていくすべが何かないと、ちょ

つときついただろうなと。そうしないと長続きしないだろうなと思います。だから、ちょっとそれを考えないといけないなと思います。

それから二つ目が、これは学校にお願いしたいことですが、せっかくこういう非常に素晴らしいことを夏休みとか、冬休みもですけども、地域としてはやってるわけですね。それが学校として、例えば夏季休業中の計画というのはきちっと立てられるわけですが、そこの中に「ふるさと塾に行こうよ」みたいな、そういうのが明記されてるのかなと。やっぱり町として、そういう文言としてきちっと入れて、そしてできれば、これは理想ですけど、全員が何がしかのところに参加しなさいというふうなことを、子供たちにも親御さんたちにも話をしていただいてほしいというのが私の気持ちです。

それから、これは個人的な話になりますが、人材の話です。私は職業柄、迦統さんとこと一緒ですけども、たくさんのご老人の方々と話をする機会が多いんですが、やっぱり戦争体験をしてる人がたくさんいらっしゃるんですね。その当時、戦争の時代でも楽しかったってということも、やっぱりいっぱい話してくださるんです。それから、人間魚雷に乗ってた。毎日、いつ行くか、いつ行くかって待ってましたという人もいて、「ああ、この人に子供たちに話してほしいな」と思ってましたら亡くなりました。そういう意味で、もうそういう方々がどんどん亡くなっていくのはとっても残念な、もったいないことだなといつも思ってるんですね。だから、そういう人たち、特に90歳以上ぐらいの人に、必ず話をしに来てくれよと。うちの親父もちょうど90なんですけども。そういう人をちょっと洗って、その人からは来ないので私たちが洗って、「この人、こういうことができるよ」ということを1個1個洗っていく必要があるかなと思います。

それから、これからコミュニティ・スクールが始まりますけども、やっぱりコミュニティ・スクールをどうするかということとこれが非常に大きな絡みがありますので、その中で徹底的にこれをよくするという方向に、コミュニティ・スクールを中心に進めていくべきだろうなと思ってます。以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

じゃあ、田中委員、お願いします。

【田中委員】 こんにちは、田中です。

大分同じような意見なのであれなんですけど、今回、資料3でまとめたように、テーマ別に分けることで、ものすごく今年は充実するんじゃないかなと期待するというか、私も一緒に手伝うので、そこを期待しております。

ですから、先ほど隈部委員が言われたように、夏休みの宿題の一つにふるさと塾を入れていただいて、その感想とか、「ふるさとを知ろう」というテーマを一つ入れていただいて、それを添削することで先生方も実は長洲町のことをよく知ることができるというサイクルができるんじゃないかなというところを期待しております。

あとは人材ですけど、人材バンクのほうをもうちょっと充実させたいなという思いがあります。ふるさと塾であったり、ほかの放課後を見守るほうにも発展させたいので、役場が持っている人材を集約すること、プラス新しい人材をやっぱり集めたいので、還暦のパーティーにちょっとお願いするとか、先ほど近藤さんがおっしゃってたみたいなの退職された方々のキャリアを生かしたいなとか考えております。

ふるさと塾をぜひもう一步発展させたいと思っておりますので、学校側もよろしく願いします。

【議長(中逸町長)】 教育長には最後にまとめてちょっとお話をしてもらおうと思いますので、校長先生方からこのふるさと塾に対して何かご要望・ご意見等がありましたらお願いいたします。

【松永腹栄中学校長】 腹栄中の松永です。

要望というか、もう意見が出てるとおりです。小学校も中学校も、子供たちをやっぱり地域の住民の一人としてどう捉えていくかというところが必要だと思います。大きな話になるんですけども、やっぱり究極は「町づくり・人づくり・生きがいくくり」だと思うので、その中に小学生・中学生を位置づけていく。子供たちをどう町民として育てていくかというときに、やはり大人が、さっきも出ていますけど、寄ってたかってみんなでかかわって地域の子供を育てる。学校は授業を一生懸命しますので、ほかの部分でどう育てていくかというのを共有して、そのことを住民が。

いわゆる行政依存型がやっぱりずっとあるわけですよ。だから、地方分権一括法の流れになってきたし、学校も昔から自主的に主体的に我が事のようにしてやりましょうよと、課題解決型の子供たちをつくってきた。大人がやっぱりそういうふうにお任せするんじゃなくて、みんなで寄ってたかって子供を育てよう。そこをどう行政サイド、学校、校区が一緒になって啓発をしながら、賛同してくれる人材をたくさん呼んで、いろんなジャンルでかかわっていく。1万6,000人の人口の中で、その1点の部分で賛同するたくさんの人、この指とまれでかかわってくれる人たちと進めていきたいなと。

学校サイドでいえば、学校でも啓発を精いっぱいしていきますし、学校を中心に啓発も

していきます。そのあたりは学校の職員も地域の一員として今後もかかわっていきたくと思います。学校でもそれぞれ頑張っていきますということを学校側からの話として申し上げます。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

それでは今度は行政からも課長さんがたくさん来ておられますので、何か行政側から、このふるさと塾に対しての思いとか意見とかあったらお願いしたいと思います。

総務課長、どうぞ。

【事務局（田畑総務課長）】 おはようございます。総務課の田畑でございます。

今日はいろんなご意見ありがとうございます。先ほどから子供たちにかかわる大人、人材バンクについていろいろ出てきております。今、ホームページ等で募集をかけておりますけど、やはり皆さんのお話を聞くと、自分の子供のときは地域で育ってきたような記憶があるんですね。ほんとうに今の子供たちとは全然違った育てられ方をしたと思います。確かに、隣で晩飯とか昼飯とかいろいろ食べていたんですね。現在はそういうかわりもあっておりません。そういうことを考えれば、皆さんの言い方は、昔の生活に戻るような感じがするんですね。それでも今の生活にもやはり連携するところも必要かと思えます。そういう中で人材バンクの募集のやり方もちょっといろいろ考えていきたいと思っております。以上でございます。

【議長（中逸町長）】 そのほか、課長さんたち、何かありませんでしょうか。

【事務局（長田生涯学習課長）】 生涯学習課の長田と申します。

生涯学習課におきましては今、放課後子ども教室、あるいは学校・地域連携ということで、このふるさと塾の取り組みと似たような形で子供たちにかかわっております。その中でやはり、先ほども出ましたけども、今後コミュニティ・スクールあたりが、今実現に向けて、そういった中身を統合できればなという考えを持っております。学童保育もありますけども、それを現在進めている状況でございます。以上です。

【議長（中逸町長）】 では、どうぞ、吉田課長から。

【吉田福祉保健介護課長】 福祉保健介護課の吉田です。

今、長洲町で介護予防拠点等、福祉の分野でも公民館とちょっとかかわるところがあるとお話しさせていただこうと思ったんですが、まさに高齢者の生きがいづくりですね。今、介護といえば2035年問題で、長洲町の人口も80歳、85歳の人口分布がすごく増えてくると予測される中で、今、長洲町介護予防事業も一生懸命やってる状況です。

その中で今、いろいろと委員さんの中から出てたお話ですけれども、今から退職される方たちが、誰かのためになるとか。今、実際こういう現象が出てきてるのは、介護予防としてのものづくり活動等の中で、今までは受講者だったんだけど、自分が教える立場になったということで、身体機能もそうですし、認知機能もそうだろうと思うんですけど、やっぱり人の役に立つという部分が非常に予防効果があるというのが出てきています。

私たちもそういった意味から、活動を参加する立場から教えていく立場というところのものと、やっぱり子供たち、特に世代からいうとお孫さんたちに、最初はちょっとつくってやろうっていうことで一生懸命されて帰られるんですね。それから、直接指導に当たられた方たちの表情を見ると、やっぱり非常に生き生きしているという感じです。

ほんとうに、今言った地域で一体になって取り組むということは、いろんな分野でのメリットが複合的に出てきた、あるいは相乗効果が出たかなというふうに思います。なので、できれば私たちも介護予防拠点等で今から先いろんな活動を、この人材バンク等を踏まえて、またやっていかなきゃいけないなという視点と、やはり今議論になっているふるさと塾ですね。子供たちにここをどうしていくのかというのもつなげながら、考えていかなきゃいけないなと今日は感じたところです。

ぜひそういった視点で連携しながら今後も事業をやっていきたいです。ちょっとそのあたりの高齢者も巻き込んでいきたいというところを、ぜひ皆さんにもお伝えしたいなと思って、ちょっとご意見しました。以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

では、教育長に、最後にまとめみたいな感じでよろしくお願ひしたいと思います。

【松本教育長】 ハードルが随分高くなりました。3人の方々、ほんとうに意見ありがとうございました。勉強になりました。これから生かしていきたいと思います。

私も何か言わなくちゃいけないと思って考えてきたことがありますので、二つ言いたいと思います。まとめになるかどうかわかりませんが。

私は教員でしたので、あちこち転勤しております。長洲がふるさとですけど、あと二つぐらいあります。それはそこに住んでたからですね、2年、3年と。やっぱりそこに住むということは、その行事を体験したり、人と触れ合ったり、知り合ったりしますので、やっぱりふるさとを愛する気持ちがそこで芽生えたのではないかなと。そこが気になるんですね。長洲町が当然ふるさとですので、どうしてやっぱり長洲町が好きかという、そこに生まれて、いろんな体験をして、経験をして、近くのおじさんたちからいろんなこと

を教わったり、怒られたりして成長してきたら、長洲町が好きなんですね。だから、そういった郷土愛を育てるためには、そういうふうに長洲町にいいところがある、自然がある、いろいろな食べ物がある、そういういいところを発見させる。そしたら次に、そういったものをつくるというような体験をさせる。その後、じゃあ長洲町をどう発展させたいかなと考えさせるのは、郷土愛の膨らみ方というか、伸びていく方向性だろうと思います。

今、このようにふるさと塾をやっていますけれども、最終的には長洲町を発展させたいという気持ちをお子たちに持ってほしいというのが本意でございます。残念ながら、長洲小学校校区なんですけど、子供たちは海に背中を向けてると思います。私は暇があると海に行きます。ところが、今の子供たちはなかなか自分で海に行きません。背中を向けています。そういったことで、もっともっとふるさと塾で長洲小学校校区は海のこと、野鳥だとか貝のこととかを教えていただく機会を持つといいかなと思います。

それで、このふるさと塾は大人、講師の先生が準備したものを子供たちに体験させます。これは一つの体験をするということで、ふるさとを愛する気持ちは育っていきますが、差し出したものを体験するっていうことで終わりますので、その後、どんなことを勉強したいということから始まって、「じゃあ、調べてみようよ」と。そして、調べてきたこと、例えば貝殻を拾ってきて、「先生、これ何という貝殻？」「何と何と何よ」って先生が教えるんじゃないで、「調べようよ」「じゃあ、どうやって調べる？」「図書館に行ってみよう」「いいね」って図書館に行ってみる。「インターネットで調べよう」「ああ、いっぱい貝殻があるんだね」「じゃあ、世界にはもっとあるかもしれないね」というようなことで、子供の発想を広げていく。そういう自分から考えていく部分を少し入れていただければと思います。

ちょっと早口で言いましたけども、そういった面を少し入れてみられたらいいのかなと思います。計画が密になって、よくなってきていますので、これらを利用しながら、人材もたくさんおられますので、利用しながら、ふるさと塾を運営していきたいと思っております。まとまりないですが、以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

先ほど隈部委員から、1年生から6年生まで一緒に一遍に皆さんが来ると、それは介護予防拠点でやってるから入れないわけです。しかし、そういう1年から6年生までわかるような何か。例えば来週月曜日、子供たちが貝掘り、アサリ貝を掘りに海に行きますよね。木下先生とよく僕も一緒に海の話をするんですけど、長洲の子供たちがアサリ貝を知らな

いんですよ。「木下さん、これはウバガイよね」「アサリですか」って、ほんとうに聞いてくるんですよ。それを見てね、「ああ、もう一回、海に子供たちをもっともっと出すことが必要だな」と感じたんです。そういうことを1年生から6年生まで一緒に、先輩後輩も、やっぱり先輩から怒られたっていうのも大事な一つのことでしょうし、そういうものをこういったふるさと塾で教えていければいいなど。

それと、校長先生方にはぜひこの人材バンクの一覧表を小学校・中学校のいろんな催しの中で活用をされてください。ほんとうに長洲は文化の方が来られて見ていただくと、ほんとうにすごい方がいらっしゃるんです。日展にも常時入選されてる方もいらっしゃるんです。陶芸も山口君という若い先生がいますし、刺し子とかいろんなそういう……。この前、清源寺校区は12月にお節料理で、田上蘭子さんに来ていただきました。こういう伝統文化を子供たちに教えよう、こういうので多くの人に参加していただき、このふるさと塾をもっともっとみんなで活性化していきたいなという狙いから今日は開催させていただきました。

今日は主にふるさと塾のことを中心にやらせてもらってます。寺子屋につきましては、今日は28年度の報告を学校教育課からさせますけど、これから4校でやっていくわけがありますから、いろんな課題がありますし、これからどういう取り組みをするか、これについても第4四半期のこの総合教育会議でやろうと。校長先生方はほんとうに教育委員の皆さんとよく打ち合わせされて、寺子屋のあり方について検討していければありがたいのかなと思います。

それで、今日は教育委員会から28年度の取り組みについての事例について発表しますが、意見とかは今回は聞きませんので。第4四半期の総合教育会議でまたお話をさせていただきます。

それでは、教育委員会、お願いします。

【事務局（藤井学校教育課長）】 それでは、また私から寺子屋学習塾について、昨年の実績を踏まえた現在の進捗状況を説明させていただきます。お手元の資料、右上に資料2と書いてあるものをごらんください。

目的といたしましては、これまでごらんになった方がいらっしゃると思いますけれども、昨年、28年度モデル事業として腹赤校区の小学4年生から6年生を対象に実施してまいりました。教員OBですとか教員を目指す大学生などを活用したNPO団体と連携しながら、学習支援を実施いたしております。

内容としましては、学力の低下傾向にある児童ですとか、いろいろご家庭の事情等で家庭学習がなかなか困難な児童ですとか、あるいは学習習慣が十分身につけていない児童への学習支援を実施するというところで行っております。

参加は、昨年は、最大31名の登録がございました。当初は17名でスタートいたしましたが、最終的には31名の方が参加いただいております。

それと、指導いただく方につきましては、NPO法人くまもと学習支援ネットワークといたしまして、県内において、予備校ですとか、不登校・引きこもり支援のためのフリースクールですとか、若者サポートステーションなどを運営されておる団体でございます。指導に当っては教員免許を持っておられる方を含めて、2名の方で指導をいただいております。

腹赤校区におきましては、毎週木曜日を実施してございまして、6月から3月まで、ここに書いてますとおり38回実施ができております。時間は4時半から6時半まで行っております。

内容といたしましては、そこに書いておりますけど、指導内容は算数の教科を中心に行っております。なお、夏休みには3回ほどタブレット端末を利用しての学習も行いました。これはNTTさんの協力をいただきながら実施できました。さらに年明けまして、1月に入りましては、英単語の読み書き等も多少取り入れることができました。

なお、この寺子屋学習塾につきましては、こういった昨年の成果、課題等を踏まえまして、今年度全小学校区、4校区への拡大実施をする運びとなりまして、先月、各小学校を通じまして、対象学年の児童及び保護者の方にチラシを配布いたしまして、今月の開講に向けての参加募集を行い、準備を進めてまいりました。

その結果、六栄小学校区につきまして、まず実施場所は向野区の公民館で実施ということで、現在38名の方が登録いただいております。それと腹赤小学校区につきまして、会場を平原区学習センターとしてございまして、現在登録は19名。長洲小学校区につきましては、会場は磯町区の磯の館で実施することとしまして、登録が18名。清里小学校区につきましては、会場を梅田区公民館で、現在の登録者が11名でスタートということになっております。

なお、早速昨日から六栄・腹赤校区は、こちらの実施日が木曜日ということで、昨日開講式を行い、第1回目の塾を開講いたしております。早速、宿題等もさせて、その後、算数のプリント等を用意し指導を行っていただいております。また、長洲・清里校区につき

ましては、来週火曜日、6日が開講日ということで、第1回目をスタートいたす予定でございます。

指導につきましては昨年と同様、NPO法人くまもと学習支援ネットワークに委託をお願いしておりまして、各会場で教員免許の保持者を含む2名体制でご指導をいただいております。時間についても昨年同様、4時半から6時半でございます。

それと、定員を一応30名としておったんですけれども、六栄小以外の定員に満たない校区につきましては引き続き参加募集をかけていきたいと思っております。まだ余裕がございますので、その3校分については引き続きやっていきたいと思っております。

こういったところで、地域の公民館、介護予防拠点施設を利用させていただきながら、各区長さん等のご理解、ご協力をいただきながら、こういった活動ができております。子供たちもメリハリをつけた学習をしております。休み時間は休み時間できちんととりながら、メリハリのある塾を運営していただいております。

今後もこの運営については、いろいろ課題等もまた出てくるかもしれませんが、委託先のNPO法人と連携を図りながら、また区長さん等のご意見をお聞かせいただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

これで私からの説明を終わらせていただきます。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。今後、寺子屋につきましては、今年終わったぐらいにまた皆さんと一緒にお話をしていきたいと思っております。今日は28年度の取り組みと29年度の取り組みについてお話をさせていただきました。

それでは、その他に入りたいと思っております。今日おいでの先生や委員の皆さんから何かお話ししたいことはありますか。

【大山委員】 一言だけいいですか。

【議長（中逸町長）】 どうぞ。

【大山委員】 ながす寺子屋学習塾については、また次回というか、また年度末とおっしゃいましたけども、もともとの目的というのは貧困の連鎖を断ち切るということから来てると思うんですね。それで、子育て支援とか福祉のほうから、それぞれの正面の家庭の子供がこの寺子屋学習塾を受けてるかどうかというのを、学校あるいは学校教育課でもいいですけども連絡をとって、受けてないならば、ぜひそちらからプッシュしていただいたほうがいいんじゃないかなと思っておりますので、よろしくお願ひします。

【議長（中逸町長）】 今の大山先生のご意見、よろしくお願ひしたいと思っております。

校長先生方から何かありませんか。

まだまだこれから寺子屋の課題も、ほんとうに貧困の連鎖ということで始めさせていただきました。しかし、なかなか貧困という定義というのなかなか難しゅうございます。しかしながら、我々はやっぱり、そういう貧困の家庭が塾とかを受けることができなくても、こういうのを支援していくことによって、少しでも学習意欲が高まるようにという思いで、この寺子屋塾というのを始めたわけであります。まだまだ、1年目を迎えて大山先生が言われたように、では貧困の家庭がどれだけ来てるかというのはなかなか難しゅうございます。しかし、みんなでやっぱりその方向性を定めていくというのが今後の寺子屋塾のあり方だと思っております。まだまだ、これから皆さんと協議を重ねながら充実した寺子屋につくってまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

では、事務局にお返しいたします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 それでは、次第4になりますけれども、その他で、平成29年度第2回長洲町総合教育会議について、事務局から連絡をお願ひいたします。

【事務局（五十嵐総務係参事）】 事務局からでございます。事務局からは、次回の第2回の総合教育会議の日程と協議・調整事項についてご連絡をいたします。

日程につきましては、8月の下旬ごろから9月上旬にかけてを予定しておりまして、協議・調整事項につきましては検討中でございます。ただ、教育委員会からも協議すべき事項、協議したい事項などがございましたら、ご提案をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からは以上でございます。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 それでは、ほかに事務局から説明その他、何かございませんでしょうか。

【事務局（五十嵐総務係参事）】 ありません。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 ありがとうございます。

それでは、本日の会議は以上で終了となります。これで平成29年度第1回長洲町総合教育会議を閉会いたします。皆様ご協力ありがとうございました。

以上、会議録の顛末を記録し、相違ないことを証するため、長洲町総合教育会議運営規約第6条第3項の規定に基づき、ここに署名する。

町 長

教育長